

'93.6/18[金]~8/18[水]

休館日／毎週月曜日

観覧料／一般大学400円・高校200円・小中学100円[常設展料金]

主催／仙台市博物館・仙台東地玩具会
江戸独楽と木地玩具を作る会

全園展

遊び心

まわれ

江戸ごまの粋



関連行事

- こまの綱渡り!〜曲独楽実演 三増紋也師匠 6/19・20
- 講演会「江戸ごまを科学する」 若生康二郎氏 7/10
- 講演会「こまの歴史と江戸独楽」 八木田宣子氏 7/24

仙台市博物館

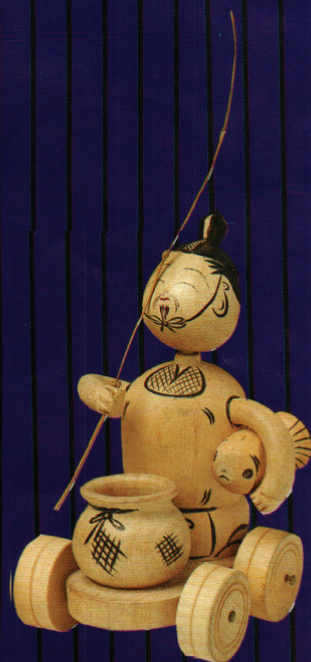
仙台市青葉区川内三の丸跡 Tel.022(225)2557



数百種類のコマと木地玩具、
現代に伝承された江戸独楽作りが
江戸っ子の粋な文化を伝える……



Unbelievable World of "EDO Tops"
SENDAI CITY MUSEUM



こまの歴史

こまは世界中で古くから親しまれてきた。日本では、名取市の清水遺跡をはじめ平安時代の遺跡からこまと考えられる木製品が出土している。軸はなく、世界共通の最も原始的な形のこまである。また古い記録としては、平安時代に書かれた「倭名類聚抄」の「独楽、和名古末都利、有孔者也」という記述があげられる。こまつくりという名は現在も青森県の「すぐり」という呼び方に残る。さらに有孔者という記述を他の資料とつきあわせるとこれは中国から伝えられた鳴りこまをさしていると考えられる。



和漢三才図会より

ただ回すだけでも楽しいのがこまだが、こまをぶつけあうけんかこまは子供達に人気があった。螺貝(はいがい)で作った螺(はい)こまはそのひとつ。江戸時代の資料には子供達がたらいの上で螺こまをぶつけあっていた遊びの様子がひんばんに描かれる。現在のべーこまはこれが鉄製に変わったものである。穴あき針に竹の軸を通して作る螺こまも江戸時代に考案され人気を呼んだが、江戸時代はこまの世界に多くの転機をもたらしたが、最も重要なのは博多こまの登場である。ろくろで精巧に作られた円錐に鉄の軸を通した博多こまは、それまでとは比較にならないほどよく回り、それを利用する曲芸である曲独楽を生むだけでなく、現在私達が普通にイメージするこまの形式がここで確立したといえる。江戸の町でも曲こまは盛んに行われ、またそれに使われるさまざまなこまも売られたという。



曲独楽の図 (歌川芳晴画)

江戸こま

こまは全国各地で作られ遊ばれたが、江戸そして東京ももちろん例外ではない。廣井家はもと幕府のお抱え医師であったが、維新後こまや木地玩具を作り始めた。四代目にあたる廣井道顕は、父賢二郎とともに仙台に疎開し以後定住しているが、横浜在住の弟政昭とともに、代

々伝えられたこまと木地玩具を作り続けている。それらは「江戸こま」と呼ばれ、木地玩具も含めて数百種類に及ぶ。普通のこまももちろん作るが、最も特徴的なのは、からくりやしかけが様々に施されているものが多いこと、そしてその形や絵付けに取りあげられた題材が、きわめて豊富なことである。

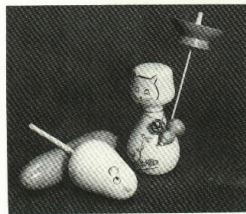
江戸こまの題材

七福神や達磨、干支などの縁起物、四季の草花や年中行事、生き物、食べ物、お化け、妖怪、鬼や物語の主人公、そして江戸や東京のさまざまな風俗……江戸こまに取り上げられる題材は多種多様である。江戸時代に大津(滋賀県)で量産された民衆のあいだに人気を博した大津絵は、簡略な筆使いと風刺のきいた内容で知られるが、これらも江戸こまの題材となっている。このことからわかるように、江戸こまの世界には、江戸時代からの伝統の中に生きる江戸っ子たちの、文化や好みあるいは流行がいきいきと表されているといえよう。



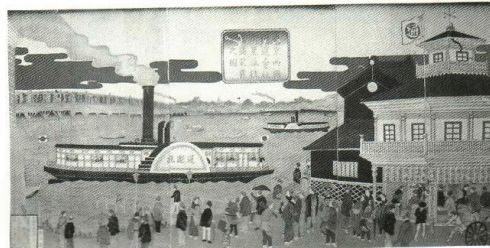
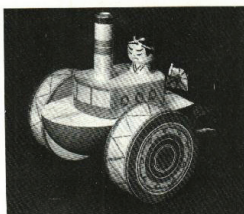
猫と鼠(大津絵)

右・よつばらい猫
左・唐子ねずみ



通運丸明治17年

通運丸(玩具)



さまざまな動きやししかけ

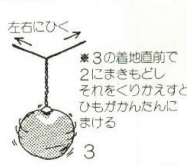
江戸こまのからくりやししかけの豊富さは、江戸における曲独楽の流行と無縁ではないだろう。曲独楽はこまそのものの芸からしだいに大がかりなからくり芸へと発展し、ついには水芸までも出現させるのである。現在伝えられている江戸こまの動きには左の図にあげたものをはじめ、次のようなものがある。①複数の部品を組み合わせてさまざまな動きをさせるもの(左写真4・24・46・50など)、②こまの形を工夫し不思議な動きをさせるもの(ク2・18・28・58・60など)、③音をだすもの(ク41・43・45・54など)、④こまの回転や振動を利用したからくり(ク14・37・57など)。

花ごま



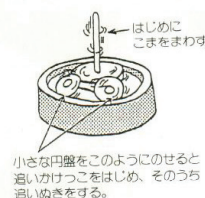
竹ひごの先に、こま(花)の中心をのせてまわす。そつとやさしくまわすのガコツ

つりごま



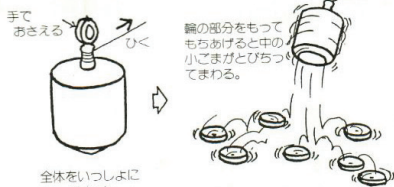
最後にそつと着地させる(おとさないように)

追っかけごま



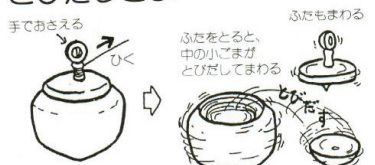
小さな円盤をこのようにのせると追いかけてこまをはじめ、そのうち追いぬきをする。

とびごま



全体をいっしょにまわす。

とびだしごま



全体をいっしょにまわす。

※まわし方が弱いととびださない

●展示構成

こまの歴史/日本各地のこま/江戸こまの伝承/江戸こまの回し方/福を呼ぶ/達磨/百面相/四季/お化け・妖怪・鬼/お話の世界/劇・見せ物・相撲/鳥・虫・動物/干支の動物/魚・野菜・果物/江戸の風俗/東京の風俗/おもちゃ/当てこまやゲーム
江戸こま名前当てクイズコーナー/百面相顔当てクイズコーナー

●主な展示資料

〈こま・木地玩具〉

江戸こま(廣井道顕作) 三二八点、江戸こま(廣井賢二郎作・石井在男氏蔵) 二点、江戸こま(廣井政昭作・石井在男氏蔵) 一点、江戸こま(鎌田孝志、新山実、新山民夫、星博秋、星定良、嶋村幸二、渡辺英夫作) 一九二点、日本各地のこま 一五五点、清水遺跡出土こま(東北歴史資料館)、螺こま(復元)、銭こま(復元)、他計約六七〇点

●関連資料

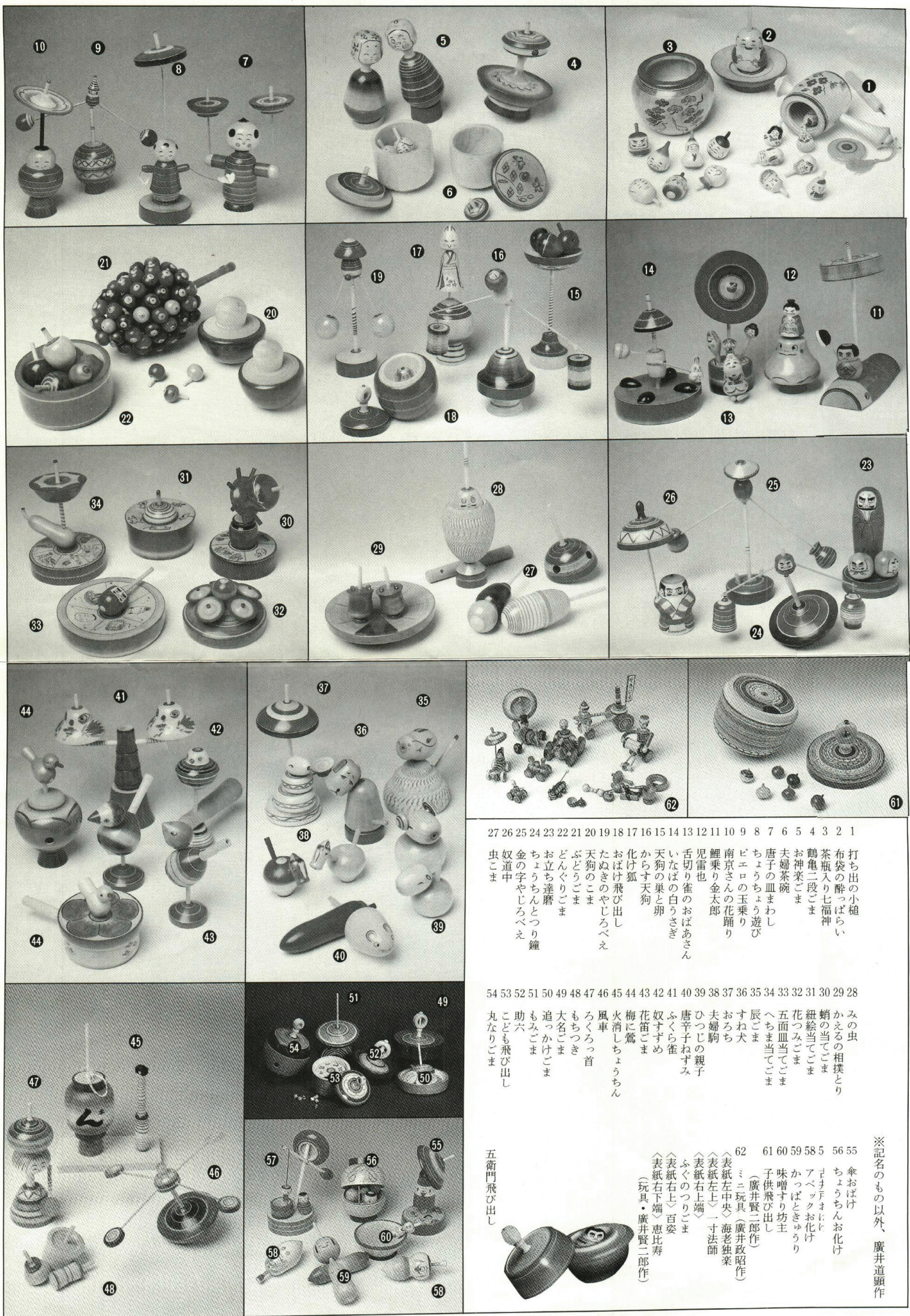
猫と鼠(大津絵・町田市立博物館蔵、ピリケン人形(横浜ブリキのおもちゃ博物館蔵)、青不動・鬼の酒盛り(大津絵・仙台福島美術館蔵)、蔵生夢魂其前日・万職図考・倭漢三才図会・江戸二色(東北大学図書館蔵)、一蝶画譜(宮城県図書館蔵)、曲独楽興行ちらし、曲独楽竹沢藤次(歌川国芳画)、鬼の念仏(大津絵)、江戸錦々様国風(歌川国芳画)、蛙相撲(遠藤日人筆)、鼠瓜図(相阿弥筆)、東京両国通運会社社旗(往復盛栄真景之図(野沢定吉画)、百色百相(歌川国芳画)、新版三十二相(小林清親画)、鳥羽絵本、北斎漫画、他計約七〇点

●関連行事

◇企画展オープン記念「こまの綱渡り!」曲独楽実演
六月一日「土」・二〇日「日」/企画展示室
出演/曲独楽師 三増紋也師
◇企画展講演会1「江戸こまを科学する」
七月一日「土」一時半/入場無料・ホール
講師/国立天文台名誉教授 若生康二郎氏
◇企画展講演会2「こまの歴史と江戸独楽」
七月二日「土」一時半/入場無料・ホール
講師/児童文化研究家 八木田宣子氏
◇同時開催/プレイミュージアム・イベント
「江戸こまをまわそう」 六/一八・七/一八
「フィルムケースで鳴りこまを作ろう」
七/二二・八/二五

◇夏休み親子教室「こまの歴史をさぐる」

①「貝のこまからべーこまへ」七/二九「木」
②「竹のこまと木のこま」八/一二「木」
※往復はがきで申し込み(七/二〇/切・必着)



27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

打ち出の小槌
布袋の酔っぱらい
茶瓶入り七福神
鶴亀二段ごま
お神楽ごま
夫婦茶碗
唐子の皿まわし
ちようちよう遊び
ビエロの玉乗り
南京さんの花踊り
鯉乗り金太郎
児雷也
舌切り雀のおぼあさん
いなばの白うさぎ
天狗の巣と卵
からす天狗
化け狐
おぼけ飛び出し
たぬきのやじろべえ
天狗のこま
ぶどうごま
どんぐりごま
お立ち達磨
ちようちんとつり鐘
金の字やじろべえ
奴道中
虫こま

54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28

みの虫
かえるの相撲とり
蛸の当てごま
紐給当てごま
花つみごま
五面皿当てごま
へちま当てごま
辰ごま
すね犬
おろち
夫婦駒
ひつじの親子
唐辛子ねずみ
奴すずめ
花笛ごま
梅に鶯
火消しちようちん
風車
ろくろつ首
もみつき
大名ごま
追っかけごま
もみごま
助六
こども飛び出し
丸なりごま

五衛門飛び出し



※記名のもの以外、廣井道顕作
傘おぼけ
ちようちんお化け
アベックお化け
かっぱときゅうり
味噌すり坊主
子供飛び出し
(廣井賢二郎作)
ミニ玩具(廣井政昭作)
《表紙左中央》海老独楽
《表紙左上》一寸法師
《表紙右上端》ふくのつりごま
《表紙右上》百姿
《表紙右下端》恵比寿
(玩具・廣井賢二郎作)